

Asian Summer School In Bangkok 2019

8/12～8/23（事前英語研修 8/6～8/9）

中部大学の参加者によるレポート



人文学部 コミュニケーション学科 3年 金井 李笑

応用生物学部 環境生物科学科 3年 柿木 幸太

応用生物学部 環境生物科学科 3年 永戸 康聖

人文学部 心理学科 2年 三宅 涼

目 次

1. 本プログラムの目的
2. 個人の参加目的
3. 日本以外の参加国および参加者
4. 講義
5. フィールドワーク
6. タイ王国の歴史文化体験
7. タイ王国での衣食住体験
8. おわりに

1. 本プログラムの目的

Asian Summer School in Bangkok 2019 ではアジアの持続的開発に関わる諸問題、環境問題と GIS(Geographic Information System)及び、リモートセンシング、ドローン等の GIS に関係した技術について学ぶ。講義を通じて発展著しいアジアの現状と問題、GIS のツールとしての有用性などについての認識を深めることを目的とする。また講義はすべて英語で行われ英語による知識の吸収に取り組む。専門的な知識、技術を身に着けるとともに国際感覚を養うことが目的である。

2. 個人の参加目的

柿木： 他国の価値観を取り入れ自分の見聞を広めるため。

金井： 持続可能な開発に活用される GIS の技術と実用を学び、自身の専門であるメディアデザインにおけるグラフィックの活用法につなげるため。また、多国籍な参加者との相互理解を行い、永続的な友好関係を築くため。

永戸： 初の異国の地で様々なバックグラウンド、文化を持つ方々と英語を用いて交流を行うこと。また、自分の専門ではない知識を学ぶことによって、より広い視点を手に入れ今後の研究、就職活動等に活かすため。

三宅： 自分の専門外の学問へ挑戦すること。

(永戸康聖)

3. 日本以外の参加国および参加者

- オーストラリア連邦

氏名： Jacob Breslin 性別： 男性

所属： Griffith University

氏名： Martín Jason Luna Juncal 性別： 男性

所属： Griffith University

● カンボジア王国

氏名： Vochlay Phouk 性別： 女性

所属： Institute of Technology of Cambodia

● スリランカ民主社会主義共和国

氏名： Hasintha Nawod Kalpana 性別： 男性

所属： Faculty of Architecture. University of Moratuwa

● タイ王国

氏名： Nus Nathamon 性別： 女性

所属： Chulalongkorn University

氏名： Wilawan Robroo 性別： 女性

所属： Khon Kaen University

● ネパール連邦民主共和国

氏名： Aakash Thapa 性別： 男性

所属： Kathmandu University

● フィリピン共和国

氏名： Carol Buenconsejo Bellen 性別： 女性

所属： Bicol University College of Engineering

● ベトナム社会主義共和国

氏名： Kim Thanh Nguyen 性別： 女性

所属： Ho Chi Minh City University of Technology

氏名： Thanh Du Thai 性別： 男性

所属： Can Tho University

● ミャンマー連邦共和国

氏名： Rannaing Lin 性別： 男性

所属： University of Yangon

計 8ヶ国 11人

(永戸康聖)

4. 講義

私たち中部大生はサマースクールが始まる前に、事前英語研修を行った。この講義では環境問題を題材とし、英語力、ディスカッション力の向上を目的としたものであった。講義の流れとしては、まず水質汚濁など特定の環境問題についての講義を受け、次にそれらの問題について AIT の学生にインタビューし、最後にまとめとしてパワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行うといった感じだ。日本にはない形式の授業だったので最初は困惑したが、インタビューの仕方や、プレゼンテーションの仕方など懇切丁寧に教えてもらったので、英語力、ディスカッション力共に大きく向上したのを肌で感じる事ができた。

サマースクールの講義は 1 コマあたり 2~3 時間あり、講義終了後 30 分の質問時間がある。1 日 2、3 コマあり、通常朝 9 時から始まり、夕方 5 時に終わるといった日程だ。講師は、日本人、タイ人、ネパール人など国籍は様々で講義は一様に英語で行われた。内容としては、主に GIS と SDGs について学んだ。

GIS の講義では、GIS とは何か、GIS を使うことのメリット、GIS がどのような分野で生かされているかなどについて学んだ。

GIS とは Geographic Information System の略称で日本語で地理情報システムのことである。代表例として Google map などが挙げられる。

GIS を使用するメリットは、紙の地図を持ち歩かなくてもスマホ一つで事足りるという点だ。これは、キャッシュレス化、ペーパーレス化など物を持たない現代のニーズに合っていると思う。他には、情報の統合や分析が簡単に行える点だ。これにより、より定量的な情報が得ることができ、情報の照合、対比が比較的容易になりデータの相関などの関係性が見つけやすくなる。

GIS はビジネス、医療、交通、災害など様々な分野で活用されている。例えば、台風により一部地域が被害を受けた場合、わざわざ危険な地域に足を踏み入れることなく、被害状況を把握しよりの確な判断を下すことができる。

このように GIS は電子媒体ならではの特性を生かし、紙媒体ではできなかったことを迅速かつ的確に行えるようにした技術であるということがわかった。

SDGs とは Sustainable Development Goals の略称で日本語で持続可能な開発目標のことである。これには様々な目標があるが、サマースクールでは主にエネルギー問題や、気候変動に焦点を当てて講義が行われた。

気候変動は地球温暖化によりもたらされたもので、干ばつ、ハリケーン、海面上昇、豪雨

など世界各地に甚大な被害を与えている。講義ではこれらの自然災害が具体的にどれだけの影響を与えているのか、原因は何か、政府はどんな政策を行っているのかなどについて学んだ。気候変動の問題は農業についての講義やエネルギー問題についての講義でも度々触れられてきたので、この問題の解決は持続可能な発展を遂げる上で欠かせないものであると言える。

エネルギー問題では、資源が年々加速度的に減少しているという現状とそれに対し政府が行っている政策について学んだ。今現在、世界中で石油や石炭などの化石燃料の使用が横行している。これらの燃料は燃焼時に二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因となる。また、人口の急激な増加に伴い化石燃料の需要が増し、近い将来これらの資源は枯渇すると言われている。講義ではこの問題の解決策として、自然エネルギーを積極的に利用することが挙げられた。水力、太陽光、風力これらのエネルギーは、クリーンかつ再生可能な自然エネルギーとして今大変注目されている。

サマースクールでは座学だけでなく実習講義も多々あった。UAVを使った実習では、実際にドローンを飛ばして画像を撮り、それをパソコンで解析し、マップを作成した。講義で基礎知識は一通り身につけていたが、実際にどのように使うかといった応用的な内容まで学ぶことができたのは非常に価値のあることだと思う。(柿木幸太)



英語クラスの講義風景



UAV 実習



講義風景 1



講義風景 2

5. フィールドワーク

サマースクールのプログラムは講義はもちろんのことフィールドワークも非常に充実している。私たちは、Khao Hin Sorn Royal Development Study Center、Lomsook Farm、The Golden jubilee Museum of Agriculture Office、PASCO、GISTDA などの施設を見学し、講義で学んだことが実際の現場においてどのように生かされているかということ学んだ。

・ Khao Hin Sorn Royal Development Study Center

この土地は昔荒野だったが国王の命により、人口植林を得て命を吹き返した土地である。この経験を生かし、ここではタイの荒れ果てた土地を元に戻すべく農業技術革新に尽力している。この施設では、タイの農業、歴史、文化について幅広く知ることができた。

・ Lomsook Farm

この施設ではスマートフォンを使い施設の温度や水の量を調節していた。端末を使って施設の管理をすることで、農業の人材不足解消に繋がるし、なにより楽に管理ができるのでとても革新的な技術だと思った。

・ The Golden jubilee Museum of Agriculture Office

ここではタイの農業の発展の軌跡について学んだ。昔の農業機具や楽器などがたくさんありとても興味深かった。この施設にはタイ国王について文献がたくさんあり、いかにして国王が国の発展に尽力してきたかがよくわかった。

- ・ PASCO バンコク支社

この会社は日本の企業でタイに進出しており、マップの作成や店舗情報の記載など GIS を使い幅広い活動を行っていた。マップ作成作業は x、y、z 軸やオブジェクトの位置調整などを行っていたが、その速さと正確さにはおもわず舌を巻いた。店舗情報を記載する際は、ネットで調べるだけでなく、実際にその店舗に電話をして情報の裏を取る必要があり、1 時間に 3、4 店舗ほどしか進まないそうだ。GIS の技術者は腕だけでなく根気も必要だということがわかった。

- ・ Geo-Informatics and Space Technology Development Agency (GISTDA)

この施設では、リモートセンシング、GIS、衛星技術開発などを行っており、近年では THEOS という地球観測衛星を打ち上げたという実績を持っている。これらの技術、特に人工衛星がどのような分野で利用されているのか、またどのようにして管理しているのかについて学んだ。併設されている資料館では、人類と宇宙学の歩みについて記されており、歴史上の偉人達がどのようにして宇宙の謎を紐解いていったかが記されておりとても興味深かった。(柿木幸太)



GISTDA



PASCO

6. タイ王国の歴史文化体験

週末あるいはフィールドワーク後、現地 AIT の学生とアシスタントの引率により、歴史や文化を体験できる各地を巡ることができた。それらは伝統的な寺院から、バンコクの中心地にある、SLAM グループが手掛ける最新のデパートまで様々であった。本項目では特にタイ王国の過去の歴史と文化に関する体験について記述する。

まず、私たちは、世界文化遺産に指定されている、アユタヤ歴史公園を訪れた。私たちは、10分という短い時間だったが、アユタヤ遺跡を象に乗りながら、目の前で眺めた。遺跡の規模と、約 300 年も経った今も残る、ミャンマーのビルマと激しい戦闘の痕跡から、アユタヤ王朝の反映と衰退を見ることができた。また、アユタヤ遺跡のすぐ側に、水上マーケットがあり、小舟に乗り移動した。ここでは、ムエタイショーの観賞と土瓶に入った濃いプリンのようなものや、蓮の実などのタイスイーツを堪能しながら、古代アユタヤの人々も、同じようにここで小舟に乗り、生活をしていたということに、思いを馳せていた。



乗り場で観光客を待つ象



現地学生・アシスタントとムエタイショーの観賞



ムエタイショー後の記念撮影

次に、上記の2ヵ所を巡った後、ワット・ヤイ・チャイ・モンコンという寺院を訪れた。これは、タイ王国で人々が宗教として最も多く信仰している仏教の寺院である。大きな塔と大小様々な仏像、そして花木の色彩が大変美しい景観だった。建物のいくつかに、黄色の布が被せられている箇所があったので、現地学生に尋ねたところ、「古い建物なので風などの気候による破壊を防ぐ為。」と言っていた。見た目も美しいが、歴史的建造物を守る為の実用的な対策であることが分かった。

そして、私たちは礼拝堂に入り、現地アシスタントから、礼拝の仕方を学び、実際に行った。礼拝をする際は必ず靴を脱ぎ、屋根の下にある4 m程の仏像にまず礼拝を行い、その後礼拝堂に入った。厳かで、ゆったりとした時間が流れていた。10 mもある大きな仏像があり、象に乗りミャンマーと戦っている様子が壁上部に描かれていた。なぜ、仏教寺院の礼拝堂に、ミャンマーとの戦いの様子が描かれているのかを、現地学生に尋ねると「私たちの祖先が自分の国を守ろうとして行った、むごい戦争を忘れないため。」と語っていた。過去にアユタヤ王朝の滅亡と、多くの命が奪われた戦争を経験したこの地は、現在観光地として栄えている。それは、仏教という同一の考えのもと、人々が団結し、祖先を想い、この地を興しているのだということを感じ、またタイ王国の歴史を学ぶことができた。(金井李笑)



ワット・ヤイ・チャイ・モンコン



横たわる仏像の前で記念撮影

7. タイ王国での衣食住体験

・タイ王国の人々について

タイ王国に到着して、最も印象的であったことは、タイ王国の人々の国王に対する崇拝心である。どこに移動するにも、街道沿いには国王の誕生日を祝う看板が建てられており、空港や駅のホームの電光掲示板では国王の長寿を願う映像が流されていた。また、大規模な建物には必ずと言って良いほど、華やかで巨大な国王の写真が飾られ、人々の車のフロントミラーには国王の写真が付いたキーホルダーがぶら下げられており、国王に対する崇拝心がとても強いのだと感じた。タイ王国では、目下の者から目上の者への敬意を示すため、挨拶をする際には合掌をしてお辞儀をする。空港でアジア工科大学院のアシスタントと初めて会った時にこの合掌をする光景に出会い、タイ王国が「微笑みの国」と呼ばれる理由が少し理解出来た気がした。しかし、タイ王国の人々が合掌をする相手は人間だけではなかった。フィールドトリップでの移動中にアシスタントの1人がゾウの置き物に向かって合掌をしたのである。なぜゾウの置き物に合掌したのかと尋ねると、ゾウはタイ人にとって特別な動物であるからと話してくれた。後から調べてみると、タイ王国では他国との戦争の際、軍を乗せたゾウが最前列で戦ったことから、敬意を示すべき「勇気と誇りの象徴」となったそうだ。また、国民の95%以上が仏教徒のタイ王国では、ブッダの母が夢の中で天から白い象が降りてきて自分の右わき腹に入る夢を見て、目覚めたとき、お釈迦様をお腹に宿していたという話から、ゾウを敬うようになった。このことから、タイ王国の仏教徒の信仰心の強さを伺うことができた。

また、タイ王国の憲法は国王を「宗教の保護者」と位置付けており、国王も仏教徒である。そして、王室はタイ王国の仏教寺院の頂点であるとされていることから、国王が国民から強く崇拝されている背景や要因について、実際にその文化に触れてみることによって知ることが出来た。



崇拝される白いゾウ



寺院内の様子

・タイ王国の食文化について

滞在中、私たちは多くのタイ料理を食べた。タイ料理の味の感想としては「辛くて酸っぱい」である。アジア工科大学院内のカフェテリアでは、多くの学生が元々辛い料理に唐辛子の調味料を加えている姿がとても衝撃的であった。なぜタイ人は辛い食べ物が好きなのかとアシスタントに尋ねると、一年中気温が高く、雨がよく降るタイ王国では食欲不振に陥りやすいため、辛いものを食べて食欲を高めていると説明してくれた。

また、バンコクには屋台がとても多く、夕食時には多くの店が満席となっており、日本での大きなお祭りのような光景がとても印象的であった。屋台の料理はとても値段が安いいため、自炊をするよりも屋台で食事を済ます方が安く済むようだ。そのため、バンコクの一般的なアパートにはキッチンが無いことの方が圧倒的に多く、特に学生は家で料理をすることがほとんど無いようだ。



屋台の様子



代表的なタイ料理パッタイ

どこのショッピングモールでも必ず日本食のお店を見つけた。ラーメンやうどん、焼肉、寿司など代表的な日本食を日本と同じ味で食べることができた。お店の看板は日本語で書かれており、お店に入ると「いらっしゃいませ」、お店を出る時には「ありがとうございました」と日本語での接客があり、その意味を理解しているタイ人も多いようだ。アジア工科大学院のアシスタントの中にも日本語の単語を多く知っている学生もいた。特に、「ドラえもん」や「ナルト」など日本の漫画やアニメについてはほとんどの学生が知っていた。このようなことから、タイ王国では日本の文化が定着していると身をもって実感した。(三宅涼)



左図：
日本料理店
右図：
味噌ラーメン

8. おわりに

本プログラムは、中部大学及びアジア工科大学院、また参加者それぞれの研究機関など、多くの支援と協力のおかげで、無事終えることができた。本プログラムに関わる全ての人々に、感謝の意を伝える。私たちが経験した、この貴重な三週間から学んだことは、参加者それぞれの分野や将来に、必ず生かされていく。また、自分たちだけの経験としてではなく、今後の本プログラムの更なる発展と継続を願い、広く共有することで、共通の知識として広めていきたい。(金井李笑)